

函館で特定秘密保護法の廃止を求める街頭署名を実施

－逢坂前衆議、道議、函館市議等の推薦議員団が集結－

函館地区連合会は5月末まで5回の実施を予定している第1回目として、4月12日(土)、函館市本町交差点周辺で「特定秘密保護法の廃止を求める街頭署名活動」を連合推薦議員団と



共に行いました。

30名を超える体制で数カ所に分散し、チラシを配布しながら市民へ署名の協力要請を呼びかけました。

逢坂誠二前衆議院議員をはじめとする、道議会議員や函館市議会議員それぞれがマイクを握り、特定秘密保護法の問題点を車上で訴えました。

荒木連合会長からは数の暴力で強行採決に至った国民不在の政治姿勢に触れ「断じて許されない独裁的政治手法。基本的人権や平和主義、民主主義を守る観点から廃止に向けた運動を強化していく。」と連合の姿勢を述べました。

各議員からも、「何でも秘密にしまい、国民の意見を封殺するのが現政権の体質だ!」「特定秘密保護法は、三権分立を崩し、行政の権力を肥大化させる。どんな視点から見ても最悪の法律だ!」と施行を阻止すべきと市民に訴えました。



まだ、肌寒さを感じる気候のせいか、人通りも疎らな感じでしたが、各議員の熱の入った演説で予定の1時間を超えた街頭活動で111筆の署名を集約することができました。